

## 2002年度発足 坂総合病院 第25回倫理委員会 報告

日時：2007年2月03日（土）午後4時～6時00分

場所：坂総合病院 新館2階カンファランス2

出欠：歯科医師1、宗教家1、弁護士1、患者1、医師2、事務局2

内容：

### 1、臨床研究の倫理審査 報告

(1) ジェルパート 使用成績調査研究 ——申請者：放射線科科長

- 委員長から、調査研究内容と事務局承認の経過を報告した。

——意見・質問 ——

- 「アレルギー関連について、ゼラチンによるアナフィラキシーなどあったのかどうか。一般的な注意なのかどうか。 ⇒使用上の一般的な注意である。
- これは患者の同意を得るのかどうか、 ⇒試験的使用ではなく市販品の適用調査であり個人の氏名や住所を提供しないので個人情報の提供でないとの扱いである。とくに個別の同意を必要としない。
- 承認の追加要件として、「患者識別番号は坂病院のID番号を使用せずダミー番号とすること」を追加して承認することとした。

### 2、第24回委員会 (06.12.02) 報告について確認した。

### 3、終末期医療に関する討議 21

#### 「日本医師会の終末期医療に関する提言について」

- 事務局 前回（1992年3月）提言と違っている点は、末期がん、エイズ、高齢者にかかわるもの、終末期医療のあり方、などが追加されていること。
- 委員長。 2006年の2月にあらためて出されたものであるが、当委員会の検討内容と大きな矛盾がないことを事務局で確認したので、当委員会としての答申はこれまでの討議方向で出したい。 ⇒●委員会として確認した。

#### 「おわりに」について ——p29-30

- 前回の意見を踏まえて追加修正し、また段落の変更をした。

——意見・質問、結論 ——

- ① p30 「医療者の論理と社会通念との乖離」とはどういうことか。わかりにくい。対立的な関係にしないほうがよい。 ⇒医療者が考える「救命」、「脳死の患者への不合理な治療」というものと患者家族の考えが違うということ。  
⇒●「社会的な合意が取れているわけではない状況の中、医療者も患者家族も考えに多様性がある、いろいろな考えがある中でコミュニケーションをとりながら合意できることをやろう」、という内容にする。
- ② p30 「客観的な決定の仕方」について ——事後の説明責任だけが強調される嫌いがある、外的な基準があるということか、 ⇒●この文言は削除する。
- ③ ●「この答申が公表されることで、終末期医療についての論議が深まっていくことを期待する。」という内容を追加する。

- 以上を追加修正して、最終的な答申文書を作成する。

#### 4、DNR指示に関する指針について 討議④

——「看護師長」「当該師長」「師長代行」など、用語の統一について——

- 日勤帯は「師長代行」がいるが他の時間外は「リーダー」になる。・・・通常現場では「看護責任者」という表現をつかってはいないが・・・。「リーダー」という文言を文書の中に使うかどうか。
- 同意書様式への署名の場合にも整合性がとれるようにする必要がある。——また「科長」が常に同席できるものではない。「管理者としての署名」と「意思決定への同席という署名」とは別に考えるかどうか。  
⇒●「チェックシート」の同席は「看護師長または担当看護師」とする。——同意書への署名は、例外的な場合を別に考える。

——現場の実施可能なガイドラインとすることについて——

- 実際の現場では、同意する事態は進んでいる。担当医師と患者・家族との関係は進んでいる。——すべてのチェック、署名を済ませてから指示決定をする、では現場に無理がある。
- 実際は「患者・家族の署名」と「医師と看護師の署名」で進むことが多い。常に署名が必要なときに主治医・担当医が必ずそろわなくてもいい。——指示決定を「科長の署名を前提にする」のは現場が大変である。
- この文書で担保するのは、基本は患者・家族の署名を大事にする、はっきり文書で確認するということである。実際の現場でやれるガイドラインにすることが大事。
- 例外的な場合は、フローチャートどおりに、「複数の医師、担当看護師の同席」と「複数医師の署名」ですすめられるようにする。
- チェックシートの署名部分には、注記する。「時間外・救急などの場合は複数の医師による署名にて可とする」を追加する。
- 以上を基本確認して、最終的な文書を作成することとした。

#### 5、病院の全体学習の企画について

——企画（案）

- ◆ 3/08（木）午後1時30分から3時30分、坂総合病院1号館8階会議室にて。
- ◆ 外部委員を含めたシンポジウム
- ◆ 副院長がコーディネータ
- ◆ 外部委員4名と委員長がシンポジスト
- ◆ 仮題「終末期医療についての答申を具体事例から考える」  
——看護部門の事例をもとに「倫理委員会事務局として事例提供」する。
- ◆ おもな内容は、「2年間の討議を紹介すること」と
- 3月3日（土）午後「コーディネータとシンポジストとの打ち合わせ」時間を作る。——時間は副院長と外部委員と調整する。

#### 6、2007年の倫理委員会の検討課題

- 現場の課題を、看護現場などから出してもらうことを基本に検討した。
- 看護師の委員から課題と思われるものを紹介した。
- 医師部門からの課題は、少し出ているが、アンケートも検討する。
- 院長からの検討要請課題がある場合は次回議題にする。

## 7. その他

- 事務局長の交代 ——5月1日から倫理委員会の事務局長を交代することを確認した。
- 事務局員の追加 ——倫理委員会の事務局員として、看護師の追加を確認した。

### ■ 次回委員会日程

——2007年4月07日（土）午後4時、「新病院2階カンファランス1」にて。

以上。